

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

・ウォーカーソンの実施 (10月17日)

プロジェクトの概説

ウォーカーソン (ウォーク+マラソン)

本学園は、1986年よりウォーカーソンというボランティア行事を、連続して30年間学園会主体で取り組んでいる。これは主にヨゼフの生徒希望者がウォーカーとなり、歩くことで募金を募る形式の募金活動である。毎年平均して150万円以上の募金が集まり、(添付資料に毎年の募金額その他の記録あり)その募金は発展途上国の教育・医療援助や東北被災地のために利用されている。

プロジェクトの目的

一つ目の目的は、援助が必要な国々への継続的な支援及び、生徒が世界へ目を向け、世界が抱える問題に興味関心を持つことである。二つ目は、生徒が主体的に関わることで、問題解決の一助となることを体験し、学ぶことである。さらに今後の目標として、この活動がさらに社会に浸透することを願い、企業等の協力を得てさらに大きな活動に成長することを掲げたい。本年度は、百五銀行・岡三証券・三重交通の後援をいただいた。

21世紀を担う彼女達が、学園のモットーである"Women for Others"となって国際社会で活躍することを期待し、長く継続していく所存である。近年、ウォーカー総数は600人に達している。

プロジェクトの実施

ウォーカーソンは年に1回土曜日の午後を利用して行っている。(10月か11月)参加者は希望する生徒、教職員、卒業生で、津市内の決められたコースを10キロ歩く。ウォーカーは2.5キロごとにあるチェックポイントで係のチェックを受け、10キロ完歩を目指す。ウォーカーは事前に10キロ歩き終わった時の募金額をスポンサーと決め、終了後感謝のカードをスポンサーにお渡しして募金を受け取る。スポンサーは主に生徒の友人、家族である。集められた募金の送り先は、事前に学園会で決定し、学園会が主体となって配分を考えている。2013年の募金は、セントハンニバル校(フィリピン)、グアタルーペ校(シエラレオネ)、日本の東北被災地にそれぞれ届けることが出来た。セントハンニバル校へは、毎年フィリピン研修に参加するヨゼフの生徒が、同校を交流訪問した際に、直接神父様(校長先生)に募金をお渡しする。グアタルーペ校へはヨゼフ会のシスターを通して送金している。セントハンニバル校への支援は2年、グアタルーペ校への支援は10年、東北被災地へは3年続いており、今後も継続して援助する予定である。

*パンフレット 送付:シエラレオネとは、「シエラレオネのマザーテレサ」といわれたシスター根岸の時代からのおつきあいである。シスター根岸は来日時、必ず本校に寄ってくださっていた。講演会等もしていただいている。シスター根岸亡き後、シスター根岸の後継者として働いておられるシスター吉田からも継続的にご便りをいただき、随時、シエラレオネの状況を校内で共有している。

使用する教材

ウォーカーソン参加証 (参加者全員)

のぼり、スタンプ、机、いす、お茶(津ロータリークラブより寄贈)

CD(テーマソング演奏)、CDプレーヤー、感謝のカード、コース見回り用自家用車

プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法

事前に全校集会を開催し、その年のウォーカソンの目的、支援先の現状等の概要を聞く機会をもつ。その際、支援先の組織の代表や現地で働くシスターから、現地の状況や支援の成果についてプレゼンテーションを受ける機会もある。毎年全校集会で、東北やフィリピンを訪れた生徒から現地情報や活動報告を受け、報告を聞いた生徒達はそれぞれ感想を「振り返りシート」に記入している。現地を訪れた生徒達も、必ず感想を文章にして残している。生徒達の振り返りの一部は、学年通信や学校のウェブサイトに掲載される。また、ウォーカソン当日の様子は、地元のテレビ局や新聞で報道される。今後は具体的な数字などによる評価方法を研究する予定である。

実施活動（下記から「○」で選択してください）				
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性	
<input checked="" type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー	
<input type="checkbox"/>	世界遺産	<input type="checkbox"/>	防災	
<input checked="" type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育	
<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化	
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他	
活動内容				
(1)				
(a) Goal ねらい				
* 震災の被災者、世界の貧しい人々、苦しんでいる人々に心を寄せ、ボランティア活動に参加する心を育てる。 * ウォーカソンの募金の送り先の実状を知り、災害支援や国際協力に理解を深める。				
(b) Activity 実践内容				
①H27 12/16 シエラレオネに、顕微鏡20台 文房具 古着など段ボール8箱分を支援物資として送った。 ②今年度の募金額1,840,542円をシエラレオネ、フィリピン、東北へ分配する予定である。				
(c) Outcome 成果と課題				
百五銀行、岡三証券、三重交通の3社にウォーカソンの取り組みと支援国についてのプレゼンテーションを行い、協賛していただき地域に活動を広める事ができた。募金先の教育環境の改善に貢献できた。課題としては、地域の方々に活動についてより広く知ってもらうことと、募金総額を上げることである。				
(d) Transformation 実践による変化				
より世界事情に関心を持ち、課題意識をもって解決に向けて考え、行動するきっかけとなった。				
(2)				
活動時間について（下記から「○」選択してください）				
<input type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）			
<input checked="" type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用			
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施			
<input checked="" type="checkbox"/>	その他（行事）			

4・5年生 人権学習

実施活動 （下記から「○」で選択してください）				
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性	
<input checked="" type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー	
<input type="checkbox"/>	世界遺産	<input type="checkbox"/>	防災	
<input checked="" type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育	
<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化	
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他	
活動内容				
(1)				
(a) Goal ねらい				
生徒たちに、世界のどこかで子どもや女性が貧困に苦しみ、人権侵害が続いていることと、対極にいる私たちが、モノにおぼれ、豊かさを享受していることとはつながっているのだと理解させたい。そのレポートを生徒たち自身でおこない、今後の消費行動など、具体的な変化を促すことをねらいとする。				
(b) Activity 実践内容				
戦後70年企画；子どもと貧困・子どもと戦争について考えるプレゼンテーション（生徒による発表） ・戦争は最大の人権侵害である。戦争の原因となる貧困をなくすにはどうすべきか。 ・先の大戦から70年を経てなお絶えない紛争の被害者たる子どもと女性の人権問題を知る。				
(c) Outcome 成果と課題				
活動は「人権学習生徒チューター」を主体とし、プレゼンテーションのための事前学習・パワーポイント制作・発表・司会進行まで生徒主導ですすめる。チューターの人選は本人たちの応募により、学習活動としての主体的学び・解決法の模索・提示など、発表者をつとめる生徒の学習成果はめざましいものといえる。聞き手となる生徒も、同級生による発表には熱心に耳を傾け、教師による講義的な学習活動よりも成果は大きい。				
(d) Transformation 実践による変化				
（発表者の場合）国際問題と自身の日常とがつながっているという理解を得られることで、生徒の学習意欲の向上・意識変革がすすむ。 （聞き手の場合）同級生の発表に刺激を受け、日頃よりはよく理解できる。フェアトレード商品への関心や、スマホの使用などにも意識が高まった。				
(2)				
活動時間について（下記から「○」選択してください）				
<input checked="" type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）			
<input checked="" type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用			
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施			
<input type="checkbox"/>	その他（ ）			

〈一緒に読もう〉新聞コンクール

実施活動 （下記から「○」で選択してください）				
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性	
<input checked="" type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー	
<input type="checkbox"/>	世界遺産	<input checked="" type="checkbox"/>	防災	
<input checked="" type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育	
<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化	
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他	
活動内容				
(1)				
(a) Goal ねらい				
社会の出来事に興味を持ち、家族や友人と話し合うことで、自分の考えを深め、世界で役立つ人になるための教養を養う				
(b) Activity 実践内容				
『一緒に読もう！新聞コンクール』への作品をつくる。夏休み中に新聞記事を読み、興味を持ったもの一つを選ぶ。まず、自分で意見を書いたあと、家族や友人と話し、あらためて自分の意見を書く作業をして、考えを深める。				
(c) Outcome 成果と課題				
ほとんどの生徒が、作品を仕上げることができた。				
(d) Transformation 実践による変化				
戦争の記事を選んだ生徒も多く、祖父母の意見を聞く機会を持つことで、真相を身近なものとしてとらえられるようになった。また、家族の意見を聞き、自分の知らないことを知り、考え方を変える生徒もあり、視野を広げる良い機会となった。				
(2)				
活動時間について（下記から「○」選択してください）				
<input type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）			
<input checked="" type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用			
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施			
<input type="checkbox"/>	その他（ ）			

3年生 夏期講座

実施活動 （下記から「○」で選択してください）				
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性	
<input type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー	
<input checked="" type="checkbox"/>	世界遺産	<input type="checkbox"/>	防災	
<input type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育	
<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化	
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他	
活動内容				
(1)				
(a) Goal ねらい				
世界遺産に関心持つこと。				
(b) Activity 実践内容				
4日間(8時間)の夏期課外講座でオックスフォード大学出版局のWonders of the Pastという10カ所の世界遺産を紹介する本を読みました。イギリスのStonehenge、インドのTaj Mahalなどについて勉強したり、各場所のYouTubeの映像も見ました。最後の日に生徒がグループで日本にある世界遺産のどれか一カ所について小プレゼンをしました。				
(c) Outcome 成果と課題				
様々の世界遺産について関心を持つことができたと思います。生徒がまだ聞いたことない世界遺産について知るようになって、プレゼンを通して日本にある世界遺産に関してもっと興味を持つ機会となったと思います。				
(d) Transformation 実践による変化				
日本の世界遺産について英語で少しでも紹介できるようになったら、世界の人々に日本の歴史や文化などに関心を持たせるチャンスです。それに、日本人として自分の国をより深く理解できることで、日本に対してもっと誇りを持つ変化を期待します。				
(2)				
活動時間について（下記から「○」選択してください）				
<input type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）			
<input checked="" type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用			
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施			
<input type="checkbox"/>	その他（ ）			

ユネスコスクール主催の環境コンテスト

教科・係など	地理	記入者	柏木 香
実施活動 （下記から「○」で選択してください）			
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性
<input type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー
<input type="checkbox"/>	世界遺産	<input type="checkbox"/>	防災
<input type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育
<input checked="" type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化
<input checked="" type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他
活動内容			
(1)			
(a) Goal ねらい			
地球環境に関心を持つ			
(b) Activity 実践内容			
ユネスコスクール主催の環境コンテスト(標語部門)に応募 標語を日本語(中学1年生・インターアクトクラブ役員)と英語(中学3年生のSクラス)で作成した			
(c) Outcome 成果と課題			
日頃、何となく耳にしていた地球温暖化という言葉について、標語を作成することであらためて調べ、考えることができた。 3年生では、世界に発信するために英語で呼びかけを考えることができた。 。また、温暖化を食い止めるために、自分たちの行動を見直そうと紙、行動に移す標語を考えた。			
(d) Transformation 実践による変化			
環境に興味を持って、生活するようになった。教室の冷房や暖房の無駄遣いにも記をつけるようになった。「環境コンテスト」 で表彰される人が増え、興味関心も大きくなった。			
(2)			
活動時間について（下記から「○」選択してください）			
<input type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）		
<input checked="" type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用		
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施		
<input type="checkbox"/>	その他（ ）		

「世界を知ろう！」JICAエッセイコンテスト応募

実施活動 （下記から「○」で選択してください）				
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性	
<input checked="" type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー	
<input type="checkbox"/>	世界遺産	<input type="checkbox"/>	防災	
<input checked="" type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育	
<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化	
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他	
活動内容				
(1)				
(a) Goal ねらい				
「世界を知ろう！」という募集テーマに基づき、JICAのエッセイコンテストに応募し、様々なことを考える機会とする				
(b) Activity 実践内容				
大阪の釜が崎にボランティア活動に参加し、西成区の定職を失ってつらい境遇にある方々の支援をしていくという体験をした。				
(c) Outcome 成果と課題				
JICAのエッセイコンテストにおいて、佳作を受賞した。				
(d) Transformation 実践による変化				
さらに、国際問題に深い関心を抱くようになった。				
(2)				
活動時間について（下記から「○」選択してください）				
<input type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）			
<input checked="" type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用			
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施			
<input type="checkbox"/>	その他（			

大阪府 釜が崎体験学習

実施活動 （下記から「○」で選択してください）				
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性	
<input type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー	
<input type="checkbox"/>	世界遺産	<input type="checkbox"/>	防災	
<input checked="" type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育	
<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化	
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	そのほか	<input type="checkbox"/>
活動内容				
(1)				
(a) Goal ねらい				
体験学習を通じて、社会構造のひずみに気づき、人間の共生を考える。				
(b) Activity 実践内容				
2泊3日 大阪府の西成区釜が崎に宿泊し、炊き出し、夜回りの手伝い、釜が崎で働いている方々からのお話を聴く。				
(c) Outcome 成果と課題				
自分のものの考え方が変化し、今まで以上に社会の構造等に気づくようになった。課題としては、さらなる事前学習を行いたいが、本校での時間が取れない。				
(d) Transformation 実践による変化				
ものの見方の変化(メンタリティ)の変化、自分が今まで過ごしてきた世界とは違った世界に触れ、視野が広がった。さらに、大学に進学した後も、自発的に釜が崎に赴き、活動をする生徒が多く出て来ている。				
(2)				
活動時間について（下記から「○」選択してください）				
<input type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）			
<input type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用			
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施			
<input checked="" type="checkbox"/>	その他（ <input type="checkbox"/> 春休みを利用する <input type="checkbox"/> ）			

岩手県 釜石ボランティア

教科・係など	宗教教育部	記入者	山田 郁子
実施活動 （下記から「○」で選択してください）			
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性
<input type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー
<input type="checkbox"/>	世界遺産	<input checked="" type="checkbox"/>	防災
<input type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育
<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他
活動内容			
(1)			
(a) Goal ねらい			
<p>・学校の建学の精神“愛と奉仕の精神”にもとづき、東日本大震災の被災地(岩手県釜石市・下閉伊郡山田町)でボランティア活動を行う。</p> <p>・現地の様子を実際に見、被災者の方々と交流することを通して、「真の復興とは何か？」を考える。</p>			
(b) Activity 実践内容			
<p>1. 参加生徒対象のオリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち物やスケジュールなどを確認する。 ・昨年も参加した生徒から話を聞き、カリタス釜石での生活の様子や、ボランティアに参加する上での心構えなどを学ぶ。 <p>2. 様々な準備を始める。</p> <p>(保育園で行うレクリエーションの準備・練習、カリタス釜石での工作教室の材料準備・レクチャーの練習など)</p> <p>3. 活動1日目【7月31日(金)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津市を出発し、岩手県釜石市へ(所要時間約9時間) NPO法人「カリタス釜石」にて、この日から4泊5日を過ごす。 <p>4. 活動2日目【8月1日(土)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地元の方々との交流(本校主催の工作教室) 宿泊施設であるカリタス釜石の「ぶらざ☆かだって」という交流スペースで、ビーズのプレスレット、ミサンガ、うちわ作りをした。 ②「釜石よいさ」の会場準備 「釜石よいさ」とは、8月上旬に行われる地元の大きなお祭りである。 5～6人ずつのグループに分かれ、会場となる大通りのごみ拾いや草抜き、掃除をした。 ③夕食準備 カリタス釜石に滞在するボランティアの方々のため、夕食の準備をした。 ④矢浦一衛さんの講話(カリタス釜石にて) 釜石市社協の災害時要援護者訪問支援員である矢浦一衛さんから震災当時のお話を聞き、津波が来たときの映像を見せていただいた。 <p>5. 活動3日目【8月2日(日)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①釜石はまゆりトライアスロン大会の運営ボランティア(釜石市 根浜海岸にて) フランクフルトやかき氷の提供と、ゴールエイド(ゴールテープを持って選手の方を迎えたり、選手が身につけているICチップの回収をしたりする係)のボランティアを行った。 <p>6. 活動4日目【8月3日(月)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日台きずな保育園、山田町第一保育所訪問(下閉伊郡山田町) 園児といっしょにダンスやクイズ、ゲームをして交流した。 ②山田町社会福祉協議会訪問(下閉伊郡山田町) 学校で集めた募金をお渡しさせていただいた。 ③「学ぶ防災」での防災学習(宮古市田老町) 語り部さんの案内で、町の象徴である第1防潮堤に上り、震災当時の状況について教えていただいた。 また、震災遺構である「たろう観光ホテル」を外から見学し、ホテルから撮られた津波のときの映像を見せていただいた。 <p>7. 活動5日目【8月4日(火)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石市を出発、三重県津市に帰着 <p>8. 活動報告(プレゼンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会で、生徒と教職員に向けて5日間の活動の報告を行った。 <p>9. 四日市大学「わかもの学会」に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表者2名が、東北での活動をプレゼンテーションした。 <p>10. 作文集(兼活動報告書)の作成</p>			

(c) Outcome 成果と課題									
<p>①《真の復興》とは？を問いつける このボランティアを続けてきて4年経った今、実際に被災地の様子を自分の目で見て、現地の方々の声を聞くことで、《真の復興》とは何か？を問いつけるきっかけをいただいている。</p> <p>②この活動に対する関心の大きさ 活動後の全校集会でのプレゼンテーションは、被災地のことを伝えてほしい、という現地の方の思いを代弁する形で東北の現状を伝える場となり、そのことが教職員や生徒たちの東北に対する関心を高めるきっかけになっている。そうして先輩から後輩へとこのボランティア活動が受け継がれ、参加したいという生徒の輪が広がっている。</p> <p>③被災地のことを忘れないでほしい、という願いに応えていくため、また、生徒自身の成長のため、今後もこの活動を継続していきたい。</p> <p>④年に一度ほど、この活動について外部の方に向けて発表する機会をいただいているが、もっと学校外に向けて多く発信し、東北の現状や見て感じたことを多くの人に伝えていきたい。</p>									
(d) Transformation 実践による変化									
<p>①現地での防災学習から学ぶ 矢浦一衛さんの講話や「学ぶ防災」での防災学習を通して、“自分の命は自分で守る”ことの大切さを学んでいる。また、カリタス釜石の宿泊所で1つの部屋にまとまって寝袋で眠ったり、近所の銭湯で入浴したりする経験を通して、実際に災害が起きたとき、不安や緊張の中、不自由な避難生活をしなければならない方々に、どのように寄り添っていけばよいかを考える良い機会をいただいている。</p> <p>②体験から理解、そして成長へ カリタス釜石では、毎日「夕のミーティング」で、その日の体験をボランティア全員が分かち合う。自ら感じ、発見し、考えていく作業を毎日行うことで、このボランティアに参加した生徒たちは体力的にも精神的にも一回りも二回りも成長する。それが、学校に戻ってきてからの日々の学習面、生活面での意識の変化にもつながっている。</p>									
(2)									
活動時間について（下記から「○」選択してください）									
<input type="radio"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）								
<input type="radio"/>	時間外活動の時間を使用								
<input type="radio"/>	ユネスコクラブ活動として実施								
<input type="radio"/>	その他（夏休みの期間に実施）								

豊かな世界遺産編を利用した授業（1年生社会）

実施活動 （下記から「○」で選択してください）				
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性	
<input type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー	
<input checked="" type="checkbox"/>	世界遺産	<input type="checkbox"/>	防災	
<input type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育	
<input type="checkbox"/>	環境	<input checked="" type="checkbox"/>	伝統文化	
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他	
活動内容				
(1)				
(a) Goal ねらい				
世界遺産についての理解を深め、それを守り共存していく路を探る。				
(b) Activity 実践内容				
ユネスコ協会の教材「守ろう地球のたからもの～豊かな世界遺産編」を用いて、白川郷・五箇山の集落の続いている理由を探り、観光地化している状況について学び、これからどのように遺産を守り、そこに住む人々の生活を守りながら観光地化と共存していくかについて学ぶ。グループを組んで考える方法を取り、自然を守りながら自分たちの生活も続け、観光地として存続するには、何が必要かを話し合い、考えた。				
(c) Outcome 成果と課題				
白川郷・五箇山の写真やDVDを用いて、まずこの茅葺きの家が存続するには『結い』という組織的な協力体制が必要であることを学ぶことが出来た。ワークシートには白川郷と五箇山の観光客数が示されたグラフ等があり、よく変化を捉えることができた。課題としては、観光地化に携わる人が敵対するのではなく、協力できることを想定したワークシートが必要であると感じた。				
(d) Transformation 実践による変化				
『結い』という組織を知ったことにより、現代生活の中でも人々がつながり助け合うことが大切であると、再認識した。過疎化について学んだ中で、観光地化という方法で集客することで、地域で仕事を創出することが出来、様々な立場でそれに関わることが出来ると知り、地域のとらえ方に新しい視点を持てるようになった。				
(2)				
活動時間について（下記から「○」選択してください）				
<input checked="" type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）			
<input type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用			
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施			
<input type="checkbox"/>	その他（ ）			

環境学習会

実施活動 （下記から「○」で選択してください）				
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性	
<input type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー	
<input type="checkbox"/>	世界遺産	<input type="checkbox"/>	防災	
<input type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育	
<input checked="" type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化	
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他	
活動内容				
(1)				
(a) Goal ねらい				
身近な環境について体験を通して考える機会を持つ。				
(b) Activity 実践内容				
河川環境楽園「自然発見館」で環境学習のプログラムを受講した。食物連鎖と生物濃縮について体験を通して学んだ。世界淡水魚園水族館「アクア・トゴ」を見学した。				
(c) Outcome 成果と課題				
座学だけでなく、自然豊かな環境の中でゲームのような体験をしながら学ぶことができたので、よく理解できた。また、考えたことを発表する時間もありより主体的な学習ができた。中学生がもっと参加して興味・関心を深めることができればよいと思う。				
(d) Transformation 実践による変化				
中学の「理科」や高校の「生物基礎」の授業の内容がこの校外学習での体験で深められ、自然と人間の関わりに日頃から興味を持つことが出来るようになった。				
(2)				
活動時間について（下記から「○」選択してください）				
<input type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）			
<input checked="" type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用			
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施			
<input type="checkbox"/>	その他（			

国際シンポジウム

教科・係など	4・5年生人権学習の発表	記入者	柏木 香
実施活動 （下記から「○」で選択してください）			
<input type="checkbox"/>	地球規模の問題に対する国連システムの理解	<input type="checkbox"/>	生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/>	国際理解	<input type="checkbox"/>	エネルギー
<input type="checkbox"/>	世界遺産	<input type="checkbox"/>	防災
<input checked="" type="checkbox"/>	平和・人権	<input type="checkbox"/>	食育
<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/>	伝統文化
<input type="checkbox"/>	気候変動	<input type="checkbox"/>	その他
活動内容			
(1)			
(a) Goal ねらい			
4・5年生が行った人権学習について、三重大学ユネスコスクール研修会国際シンポジウムにて、All Englishで発表を行うことで、学び考えたことを世界に発信する礎とする。			
(b) Activity 実践内容			
子どもや女性の人権について学んだことをユネスコスクールの国際シンポジウムでプレゼンを行い、会場の参加者に私たちに出来ることを訴えた。その際、学校では日本語で行ったプレゼンテーションを、今回のシンポジウムのために英文に訳し、全文をチームのメンバーで分担して暗記し、Nativeの教員の指導の下、外国からの参加者にも理解していただけるような英語で発表した。			
(c) Outcome 成果と課題			
発表が始まったら、会場では感嘆の声があがり、その後からは会場がシーンと静まりかえり聞き入ってもらうことが出来た。本番が一番うまくできたので、生徒の大きな自信になった。プレゼンテーションのパワーポイントは日本語の時に使ったものをそのまま使ったので、小学生などは英語がわからなくてもパワーポイントの画像を見るだけで様子がわかったのは良かった。今後の課題としては、このような機会でもっと発表していきたい。			
(d) Transformation 実践による変化			
発表後、大変反響があり、シンポジウム参加者の方からお褒めのお言葉や、当時、コンゴ民主共和国に隣国に住んでいたという方から学校にメールをいただいたりして、生徒たちはもちろんのこと、教員も大変励まされた。5年生は、将来の夢や進路に対してより真剣に取り組むようになった気がする。英語に対して、世界に発信するツールとして有効であること、発音を褒めていただけたことで自分たちの思いが伝わることを実感したように思われる。			
(2)			
活動時間について（下記から「○」選択してください）			
<input type="checkbox"/>	通常の授業を使用（総合的な学習の時間を含む）		
<input type="checkbox"/>	時間外活動の時間を使用		
<input type="checkbox"/>	ユネスコクラブ活動として実施		
<input type="checkbox"/>	その他（ ）		

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（

）